平成 26 年 5 月 14 日

各　　位

会　社　名　**株式会社長谷エコーポレーション**
代 表 者 名　代表取締役社長　辻　　範　明
（コード番号　１８０８　東証第１部）
本社所在地　東京都港区芝二丁目３２番１号
問 合 せ 先　執行役員 広報ＩＲ部 担当　岡　田　　裕
（ＴＥＬ　０３－３４５６－３９００）

中期経営計画の策定に関するお知らせ

当社は、平成２４年２月に「新たなステージの基盤作り」として位置付けた中期経営計画「ＰＬＡＮ ｆｏｒ　ＮＥＸＴ（平成２５年３月期～平成２８年３月期)」（以下「４Ｎ計画」）を策定して、建設を中心としたフロー市場とこれから着実に積みあがっていくストック市場の両方に軸足をおく経営への移行をより加速させると共に、変化に耐えられる財務体質の整備、更に中長期的な視点を踏まえた新たな取組みへの挑戦を萌芽させていく事を標榜し、取り組んでまいりました。

結果、新築分譲マンション市場は想定より早いペースで市況が回復し、新築分譲マンションを中心とした建設関連事業においては計画を上回る利益と受注量確保に目途が付いた事に加え、経済環境の好転等により保有不動産等の資産売却も進んだことで、最大の課題であった優先株式の全額償還と普通株式への復配を今期実現出来る見通しとなりました。

これにより、当社の再建が完了することになると共に、将来に向けた取り組みを更に進展させていく環境が整った事から、平成２６年３月期をもって４Ｎ計画を２年前倒しで終了させ、このたび新たな経営計画を策定する事と致しました。

近い将来、首都圏の世帯数が減少に転じると予測される中、当社を取り巻く環境は、少子化・高齢化の進行や高経年マンションの増加、建設技能労働者の減少、環境・エネルギー問題等への対応など、基本的には４Ｎ計画策定時から大きく変化していない事から、本計画においても基本方針は４Ｎ計画を踏襲致しますが、サービス関連事業の確立を一段と強力に推進させる観点から、グループ事業の連携と都市居住生活者からの更なる信頼獲得を基本方針に加えて取り組んでいく事と致しました。

以上に基づき、新たに策定する中期経営計画は、２０年に渡る再建を完了して新たに「新生ＨＡＳＥＫＯ」として再誕する意味を込め、計画名称「ｎｅｗｂｏｒｎ　ＨＡＳＥＫＯ」（略称「ＮＢ計画」）と致しました。計画期間は、平成２７年３月期より６年間と定め、前半３年間を「Ｓｔｅｐ　Ｕｐ」期間、後半３年間を「Ｊｕｍｐ　Ｕｐ」期間と位置付け、計画を推進してまいります。

記

■　経営計画「ｎｅｗｂｏｒｎ　ＨＡＳＥＫＯ」（以下「ＮＢ計画」）概要

- 計画期間：　平成２７年３月期～平成３２年３月期（６期間）
- 位置付け
  ✧４Ｎ計画を「Ｈｏｐ」、ＮＢ計画の前半３年間を「Ｓｔｅｐ」、ＮＢ計画の後半３年間を「Ｊｕｍｐ」と位置付け、再生完了「新生・長谷工」として再誕・躍進を目指す。
  ✧ＮＢ計画の前半３年間を「新生・長谷工へのステップアップ期間」として、中期経営計画「ｎｅｗｂｏｒｎ ＨＡＳＥＫＯ Ｓｔｅｐ Ｕｐ Ｐｌａｎ」（以下「ＮＢｓ(ｴﾇ･ﾋﾞｰ･ｴｽ)計画」）を策定。

■ 中期経営計画　ＮＢｓ計画　概要

- 計画期間：　平成２７年３月期～平成２９年３月期（３期間）
- 基本方針
  1. 新規の住宅供給等を主なマーケットとする建設関連事業と既存の住宅関連等を中心とするサービス関連事業の両方に軸足をおく経営の確立
  2. グループ連携を深化させ、都市居住生活者の信頼に応える企業体の実現
  3. 安全・安心で快適な集合住宅を提供
  4. 飛躍に向けた安定した財務基盤の確立
  5. 中長期的な視点を踏まえた新たな取組みへの挑戦
  6. 実効性の高いガバナンス・内部統制の確立
- 数値目標：　平成２９年３月期　連結経常利益３５０億円、単体経常利益２３０億円
- 具体内容

1. 本業収益強化について
『新規の住宅供給等を主なマーケットとする建設関連事業と既存の住宅関連等を中心とするサービス関連事業の両方に軸足をおく経営の確立』
   - 新築分譲マンション工事受注における適正利益の確保
   - サービス関連事業収益の拡大と都市居住生活者の信頼に応える企業体の実現

2. 技術力・技術開発の強化・推進について
『安全・安心で快適な集合住宅を提供』
   - 次世代生産システムの開発・構築（ＩＴ技術の活用、工業化推進など）
   - 次世代マンションの開発・展開（省エネ・環境関連技術など）
   - 高齢者向け集合住宅、賃貸マンションの生産技術の具体案件での検証・展開
   - 改修技術開発の更なる強化

3. 財務戦略について
『安定した財務基盤を確立するとともに、株主への利益還元を安定的に行っていく』
   - 利益分配については、安定的な株主還元の継続、成長戦略投資、有利子負債の削減にバランスよく配分
   - 自己資本と負債の構成比を意識しつつ、期間利益の積上げによる自己資本の拡充を図り、「飛躍に向けた安定した財務基盤の確立」

4. 将来を見据えた新領域への挑戦について
『中長期的な視点を踏まえた新たな取組みへの挑戦を萌芽させていく』
   - サービス関連事業を起点とした国内主要都市への事業エリア拡大の可能性を追求
   - 海外における長谷工グループの事業基盤構築への取り組み

5. 経営管理・人材等について
『お客様本位の事業活動を通じて社会に貢献し、信頼を得ることを経営の基本方針として掲げ、実効性の高いガバナンス・内部統制の確立に向け引き続き注力する』
   - 外部からの客観的・中立の経営監視機能として、過半数の社外監査役を含む監査役会による監視と、社外取締役を取締役会に加えることによる取締役会の活性化と経営の監視機能の強化を推進
   - コンプライアンス､品質（ＩＳＯ９００１）、環境（ＩＳＯ１４００１）、情報セキュリティ、個人情報保護の体制の継続的な維持・強化
   - グループ一体となった経営体制の強化とそれを担う人材の育成
   - 女性社員の積極的な活用を推進

以　上